

# 第3回生涯学習施設整備推進審議会

(令和8年1月27日)

協議題「建設候補地の選定について」

〈グループ協議:各委員の発言のまとめ〉

## ○委員 1

### 【④関沢地内（嘉平山）】を最適地と考える意見

- ・アクセスの良さ  
他地域から入りやすいエリアであり、交通アクセスが良い。
- ・広いスペースの確保  
将来的に大型バスで市内外からの利用が可能となる広いスペースを確保できることが、施設の利用において重要な要素であると考えられる。
- ・多世代交流のためのスペース確保  
生涯学習施設として、多世代交流や多様な利用形態に対応できる空間が必要であり、広い敷地の確保が不可欠とされている。
- ・音の影響が少ない立地  
子どもが元気に遊んでも周辺への音の影響が比較的少ない立地である点が、利用環境として好ましい。

## ○委員 2

### 【④関沢地内（嘉平山）】を最適地と考える意見

- ・車社会を前提としたアクセスのしやすさ  
車利用が中心となっている現状を踏まえると、関沢地内（嘉平山）は対応しやすい立地である。
- ・機能分担による都市構造のバランス  
ぶれすぼ胎内周辺をスポーツエリア、線路を挟んだ反対側を文化・学習エリア、市役所を中間拠点と位置付けることで、機能配置のバランスが図られる。
- ・一極集中による混雑リスクへの懸念  
公共施設を一か所に集約する利点はあるものの、イベント時などの混雑や交通負荷を考慮すると、適度な分散配置の方が望ましい。
- ・将来的な発展性への期待  
施設を核とした将来展開や周辺整備の可能性を考慮すると、関沢地内（嘉平山）が最も発展性が高い。
- ・新たな付加価値創出の可能性  
現状は更地であるものの、新たな機能や価値を付加できる余地が大きい。

## ○委員 3

### 【④関沢地内（嘉平山）】を最適地と考える意見

- ・将来展開を見据えた立地評価  
将来的な施設活用や敷地の広さを踏まえ、関沢地内（嘉平山）が適している。
- ・自然に恵まれた利用環境  
自然環境を活用した遊歩道や屋外活動など、多世代が利用できる環境整備の可能性。
- ・大規模利用への対応力  
イベント開催時などを想定した広い駐車スペースの確保が可能である。
- ・地域資源との連携による活性化  
農産物販売や新潟食料農業大学との連携など、地域資源を活かしたにぎわい創出への期待。
- ・屋外施設整備による利用拡大  
屋内施設に加え、将来的な屋外施設整備により、子育て世代を中心とした利用拡大が期待できる。

## ○委員 4

### 【④関沢地内（嘉平山）】を最適地と考える意見

- ・候補地比較による選定結果  
複数候補地の中から、ふれすぽ胎内周辺と関沢地内を比較検討した結果、最終的に関沢地内（嘉平山）が適している。
- ・コンセプトとの整合性  
幅広い年齢層が利用する施設とするコンセプトに合致する場所。
- ・学生層の利用しやすさ  
高校生や学生の学習利用を想定した場合、電車通学者や周辺学校の生徒にとって徒歩等での利用が可能な距離であり、アクセス面での利便性がある。
- ・多世代利用を支える交通環境  
将来的な公共交通（巡回バス等）の活用により、多世代にとって利用しやすい立地となる可能性がある。
- ・日常利用のしやすさと混雑回避  
環境面や混雑の観点から、ふれすぽ胎内周辺と比較して、日常生活の中で利用しやすい施設となる可能性が高い。

## ○委員 5

### 【①ふれすぽ胎内周辺】を最適地と考える意見

- ・施設配置・敷地活用（既存施設の配置換え・建て替えを前提）  
既存体育施設などの配置換え・建て替えにより、大規模駐車場の確保や柔軟な施設配置が可能。
- ・スポーツ施設との連携  
野球場、陸上競技場、アーバンスポーツ施設等の利用者の送迎の集約や待ち時間の有効活用が可能である。
- ・多世代交流・胎内らしさの発信  
農家による出店や地場産品販売、トラックや大型バスの乗り入れが可能な環境を生かし、「胎内らしさ」を体感・発信できる多世代交流拠点としての活用が期待できる。

## ○委員 6

### 【①ふれすぽ胎内周辺】

- ・利用者の待ち時間活用  
ふれすぽ利用者の家族が、待ち時間に生涯学習施設を利用できれば、相乗効果が生まれ、にぎわいができるイメージがある。

### 【②中央公民館周辺】

- ・生徒利用  
中央公民館周辺でも、学校が統合された場合には生徒が多くなり、気軽に通える。

### 【④関沢地内（嘉平山）】

- ・立地評価  
関沢地内（嘉平山）は広々しており、整備内容によって展望も良く、板額御前のお膝元という文化的な背景から、敷地として良く、基地としてシンボルになる。

### 【⑤旧柴橋小学校】

- ・アクセスの良さ、文化的な名所との連携  
駅の反対側にも拠点があつてよいと思い、アクセスも良く、道幅は狭いが、城の山古墳という名所もあり、総じて好印象である。

## ○委員 7

### 【④関沢地内（嘉平山）】を最適地と考える意見

- ・ グランドデザインとの整合

第1回で示されたグランドデザインを前提とすると、それが実現できる場所を考える必要がある。

- ・ 交流機能に必要な敷地条件

交流の場には広い面積が必要であり、計画上、駐車場だけで約6,000 m<sup>2</sup>が必要になる。たとえば、旧中条体育館跡地・中央公民館の候補地では駐車場だけでいっぱいになる。他も同様である。

- ・ アクセスの考え方

アクセスは近いかどうかだけでなく、混雑しないこと、安全に出入りできることが重要。

- ・ 周辺道路の危険性への懸念

狭い道路に100台、200台の車が通る方がよほど危険。

- ・ 敷地の自由度

関沢地内（嘉平山）は土地が広く、自由度が高く、様々なことが可能。

- ・ 活断層に関する考え

活断層に近い遠いで、地震の有無や被害の大小が決まるものではない。

- ・ 機能の重点

交流機能を重視してほしい。図書館はデジタル化により大規模でなくてもよい。

- ・ ノイズ(騒音)問題を考えるべきである。民家に近い地域では苦情問題がおきる。

- ・ 嘉平山は「丘」であり、災害発生時の避難地としてもベストである。

## ○委員 8

### 【④関沢地内（嘉平山）】を最適地と考える意見

- ・ 市外からの来訪者の視点

国道に近い方が、市民だけでなく市外の人も来やすい。

- ・ 敷地の発展性と自由度

施設を建てた残地についても、空き地にしているだけでも将来活用できる可能性がある。また、出入口を国道側に設けるなど、アクセスの向上を図ることができるのではないかという意見。

### 【①ふれすぽ胎内周辺】

- ・地区間の利用しやすさ

中条地区以外に住んでいる人にとっては、中条中心部は遠く感じられるため、中条地区以外の人にも利用しやすいと思う。

## ○委員 9

### 【全体意見】

- ・建てた後の使われ方を重視

どこに建つかよりも、建設後にどれだけ使われ、愛されるかによって、施設の価値が市に還元されるとの考え。

- ・候補地はふれすぽ胎内周辺と嘉平山の双方を評価

一択に絞るのではなく、ふれすぽ胎内周辺と関沢地内（嘉平山）のいずれにも可能性を感じており、場所自体はどこでもいい。

- ・不安への説明の重要性

熊や活断層についても、原因や対策をきちんと説明する必要がある。それ以外も感情的な不安が先行していると感じる。

### 【①ふれすぽ胎内周辺】

- ・施設集約の考え

スポーツ施設などが、ばらばらにあるよりもまとまっている方がよい。

- ・工業団地周辺の特性を活かした利用可能性

工業団地には市外から通勤する若い世代が多く、仕事帰りに立ち寄れる学習・交流の場としての可能性がある。

### 【④関沢地内（嘉平山）】

- ・候補地の現実性と理想

現実的に叶えやすいのは関沢地内（嘉平山）だが、あったらいいのはふれすぽ胎内周辺。

- ・アクセスの良さ

幹線道路に近い立地であれば、市内外から来訪しやすく、関係人口の増加につながると。

- ・敷地の自由度

遊歩道や象徴的な施設など、将来に夢を持てる空間づくりへの期待ができる。

### 【その他】

- ・中央公民館周辺の不安

夜間や冬季に運転していて、細い道が怖いと感じた。

## ○委員 10

### 【②中央公民館周辺】

- ・人口密度・都市計画的観点

都市計画的に考えると、人口密度が最も高い場所が望ましい。ただし、用地買収はリスクが高い。

- ・既存拠点との近接性

市役所や郵便局に近い点は利点である。

- ・生涯学習施設は中心市街地の活性化と一体で考えるべきであり、郊外立地の場合は、その代替策を明確に示す必要がある。

### 【③中条駅周辺】

- ・鉄道利用との連携

中条駅周辺であれば、鉄道利用とセットで施設利用を考えることができる。

- ・中心市街地の将来像への問題意識

中心部が元気にならなければ、町全体が廃れていくという危機感を持つ必要がある。

- ・生涯学習施設は中心市街地の活性化と一体で考えるべきであり、郊外立地の場合は、その代替策を明確に示す必要がある。

### 【④関沢地内（嘉平山）】

- ・敷地の位置

中心部との関係性を維持できるぎりぎりのライン。

- ・敷地の広さと将来性

敷地が広く、工期の早さなど公費も合理的に考えると関沢地内（嘉平山）。

- ・中心市街地が衰退しないための具体的な活性化方策や公共交通などによるストレスのないアクセス手段を必ずセットで示すべきと強調

## ○委員 11

### 【①ぶれすぼ胎内周辺】を最適地と考える意見

- ・日常利用との親和性

大会やスポーツ利用などとあわせて立ち寄りやすい立地である。また、体育施設を利用する保護者の待機場所としての居場所とすることができる。

- ・インフラ

インフラがある程度整っている。

- ・駐車場

ふれすぽ胎内との併用、イベント時には周辺のクラレからの借用などで対応可能。

## ○委員 12

### 【④関沢地内（嘉平山）】を最適地と考える意見

- ・中学校統合との関係

基本的には中央公民館が1番であるが、中学校統合との関係で難しいと思い、次点で関沢地内（嘉平山）を選択した。消極的な理由で選んではいる。

- ・敷地の余裕

敷地が広く、他の場所と比較したときに駐車場や屋外空間を含めた計画がしやすい。

- ・アクセス

市街地から遠くないが、巡回バスを出したり、魅力的な施設にして全世代が集まるようにしてほしい。

## ○委員 13

### 【④関沢地内（嘉平山）】を最適地と考える意見

- ・敷地の余裕

敷地が広く、他の場所と比較したときに駐車場や屋外空間を含めた計画がしやすい。

- ・コンセプト（図書館機能・公民館機能・多世代交流）を実現するには、一定の敷地規模が必要であり、関沢地内（嘉平山）はそれに適している。

- ・アクセス

バスなどがあれば距離や安全面についても対応可能。

## ○委員 14

### 【④関沢地内（嘉平山）】を最適地と考える意見

- ・駅からの距離

関沢地内（嘉平山）は駅から近い。学生目線では駅直結の立地が望ましいが、それが難しければ関沢地内（嘉平山）の立地でも良い。関沢地内（嘉平山）は駅から少し離れているが、利用しやすさや利便性を考えると許容範囲。

- ・ 周辺環境

自然が豊かで、その魅力を発信できる。

- ・ 施設イメージの実現性

他所に行った経験から、施設のイメージがしやすい場所である。

- ・ 防災拠点として

「ふれすぼ胎内周辺」も候補として良いかもしれないが、防災拠点と行事拠点が重なると利用に制約が出る場合がある（例：鳥インフル対応で立入禁止になるなど）。

- ・ 敷地の広さ

敷地が広い。